

カラー版

球二郎くん

人妻のおっぱいが
揉みたい年頃

いやあ♡
うれしいなあ♡
今度は…

R18
18歳未満の
購入 閲覧禁止
ADULT ONLY

本編20P+ おまけ漫画10P= 合計30P!!

お断り

・この作品はR-18指定です。性的な描写が含まれるため18歳未満の方の閲覧は固くお断りしております。また、18歳未満の方が閲覧できない場所での保管をお願いいたします。

・無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載（SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む）は禁止です。また、不特定多数の方が無料で閲覧できる場所での掲載を固く禁じます。

・この作品の内容はフィクションであり、全くの架空の物語です。実在の人物・団体・事件等とは一切関係ありません。

・この作品はフィクションであり、実際に相手の身体・尊厳を傷つける行為は犯罪であり、違反者は法律で厳しく罰せられます。



おばさん
おトイレ
ありがとう
ございました

ある日
息子が友達を
家に連れて来ました

そんな
わざわざ
おいなんよて

それより
本当に大丈夫？
左手のケガ？

ごめんなさいね
うちの子が
練習中に
ぶつかっちゃって

いやあ
大丈夫ですよ
おばさん

まだ
痛むんじゃない？
普段生活
大変でしょー？

いやあ
大丈夫
ですよ

利き手じゃ
ないんです
余裕です

そ…
そう？

治療費だけでも
お支払い
したいんだけど…

ご両親
遠慮なさってるし…

ナニが

何か
詫びしなきゃ

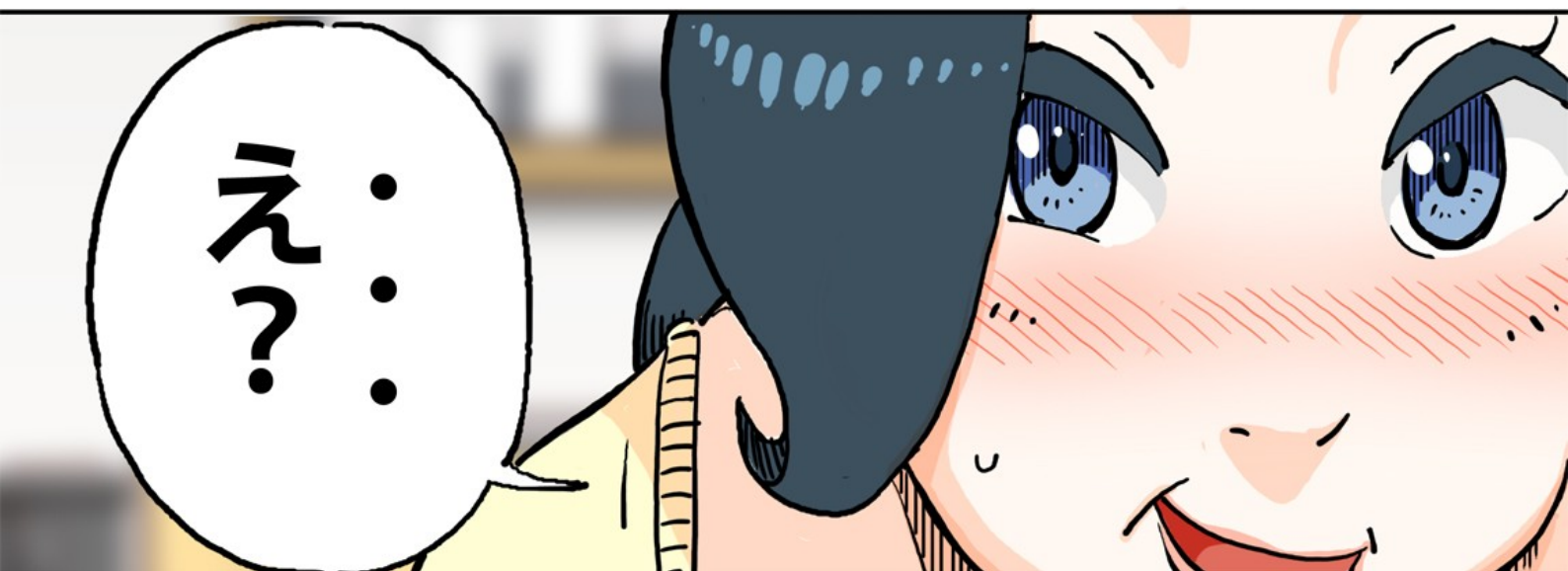
おばさん
申し訳ないわ…

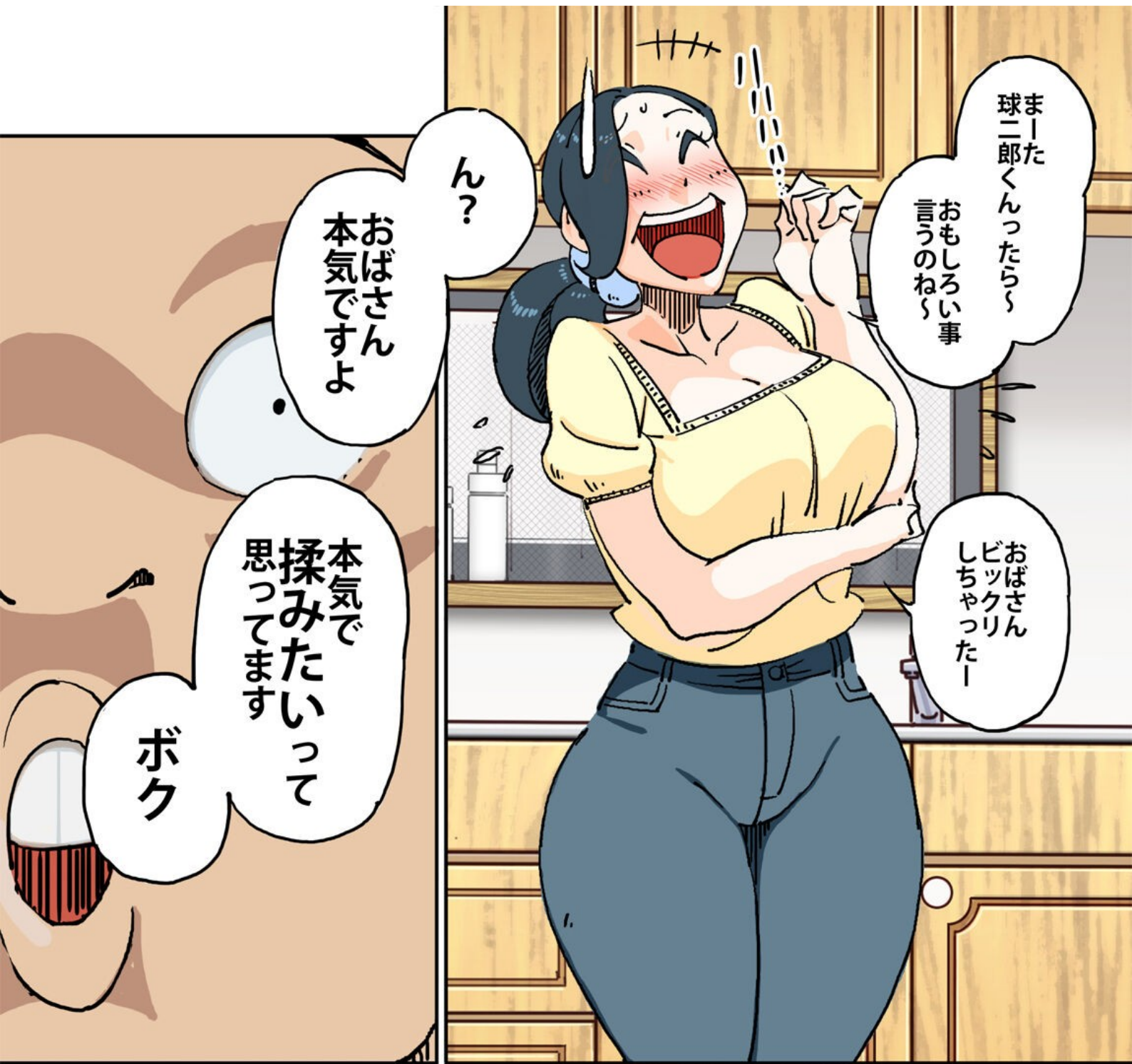
何か
おばさんが
役に立てること
あったら
いいんだけど…

役に
立てること…
ですか？

そうそう
何か
あるかしら？

うーん
そうだなあ







「よりによって
ワタシのおっぱいに
興味があるって言うのー!」



「男の子だし…
女性のカラダに
興味持つのは
自然なことだろうけど…」



「ええ
おばさんのおっぱい
揉んでみたいなあって
前から思ってたて」

「本当に？」

「ええ!!
うそ!!
本気の本気で
言ってるの!」



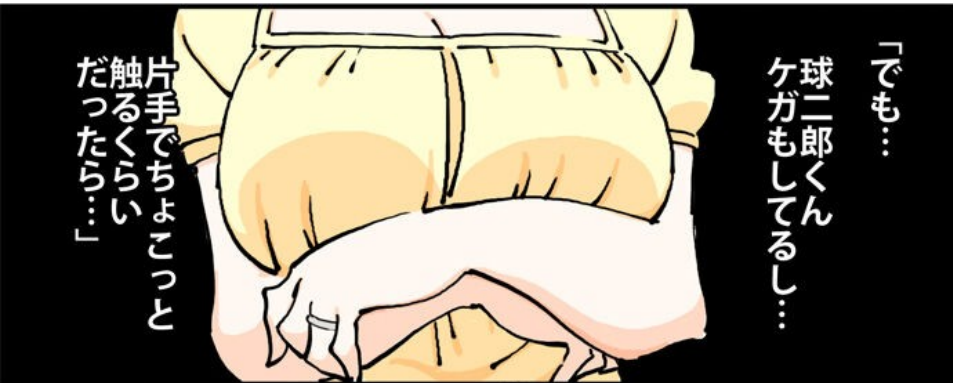
「やっぱ
無理ですか？」

「えっ!
いや:
そっそれは…」

「そうなんですわー!
役に立てることって
言うから」

「言って
みたんですけど」

「無理なら
いいですよ」



「片手でちょこっと
触るくらい
だったら…」

「でも…
球二郎くん
ケガもしてるし…」



「どっ…どうしよう
このままだと
人の家の子にケガさせて
何もしない
親になっちゃう…」

「でもおっぱいって…」

「いくらなんでも
息子の友達に…」



「それじゃあ
二階のお部屋…」

「来てくれる？」



「ああ!もう!
仕方ない!」

「あうー…
球二郎くん…」

そして私は彼を
夫婦の寝室へと
連れていきました。

一階では
息子と
他の友達
ゲームに
興じています。

私は
意を決しました。



あ…あのう

球二郎くん…

ええ
わかりました

本当に
いいんですね？

う…うん

ちよっ…
ちよっとだけよ！
ちよっとだけ！

ちよんちよんっ
みたいなの
感じよ

おばさんね

あの…おっぱい
触らせるのはいい
んだけど…

この事は…
誰にも…
言わないでね？

ちよんちよん
ですね♡

わかりました♡

「これはお詫び！
お詫びなのよ！」

じゃあ
おばさん
いきますよ？

えっ…
…ええ…

「自分で思うのも
つらいけど」

こんなおばさんの
おっぱい…

そこまで
執着なんて
ないわよね？」

「女性のカラダに
興味を持って
ちよっと触ってみたく
なっただけよね？」

「ただ…
それだけよね？」

アッ
ニャッ

「って結構ガッツリ！」

えっ

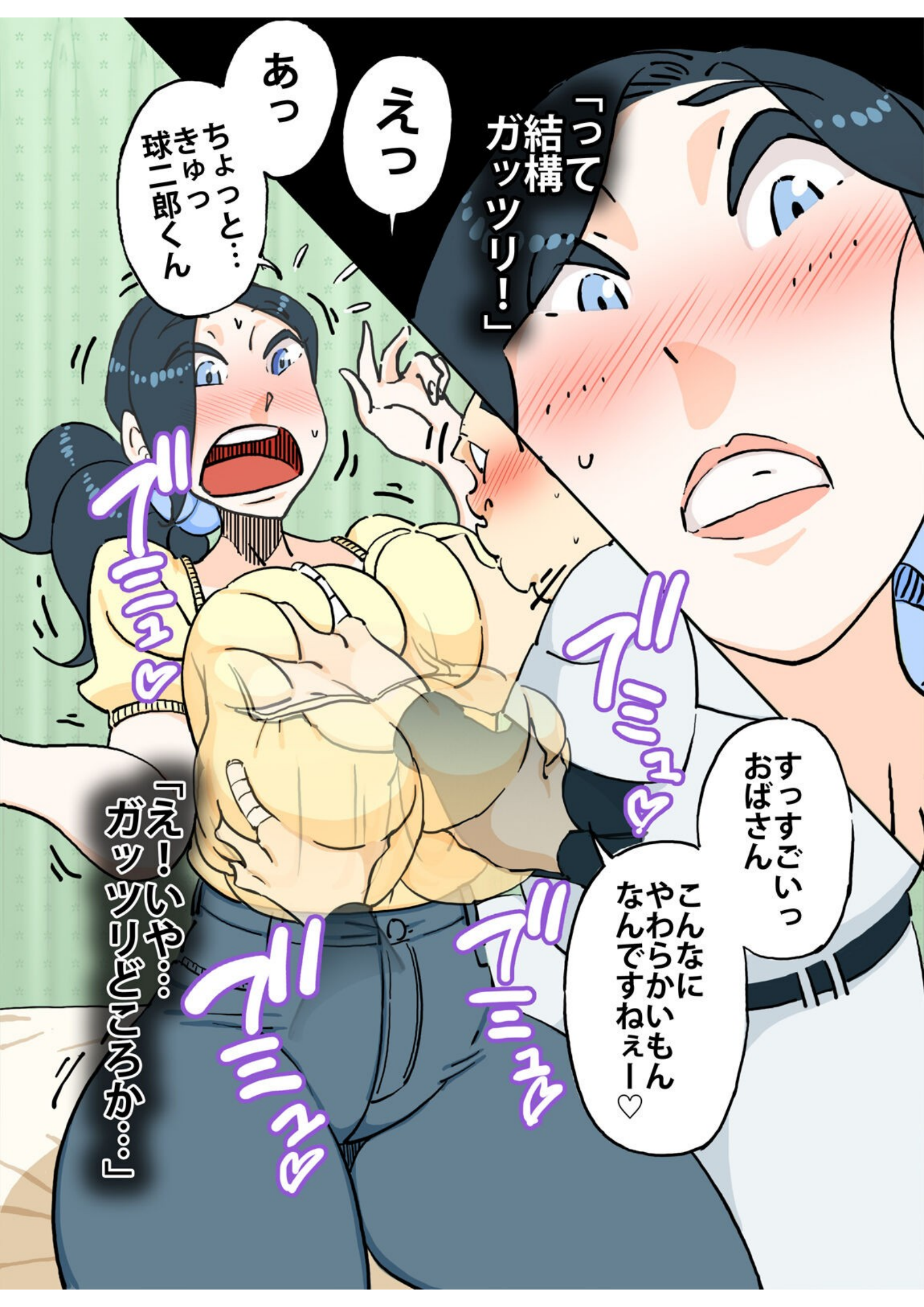
あっ

ちよつと…
きゅっ
球二郎くん

すっすごいっ
おばさん

こんなにかいもん
やわらかいもん
なんですなー！
♡

「え！いや…
ガッツリどうするかな…」





「はっ…
激し過ぎ
じゃない？」



「…って
言っかケガ…」



ボクが
嫌だつて
言うのにて

そして
理解
できた時には

球二郎くんの…

ポイッ

え…?

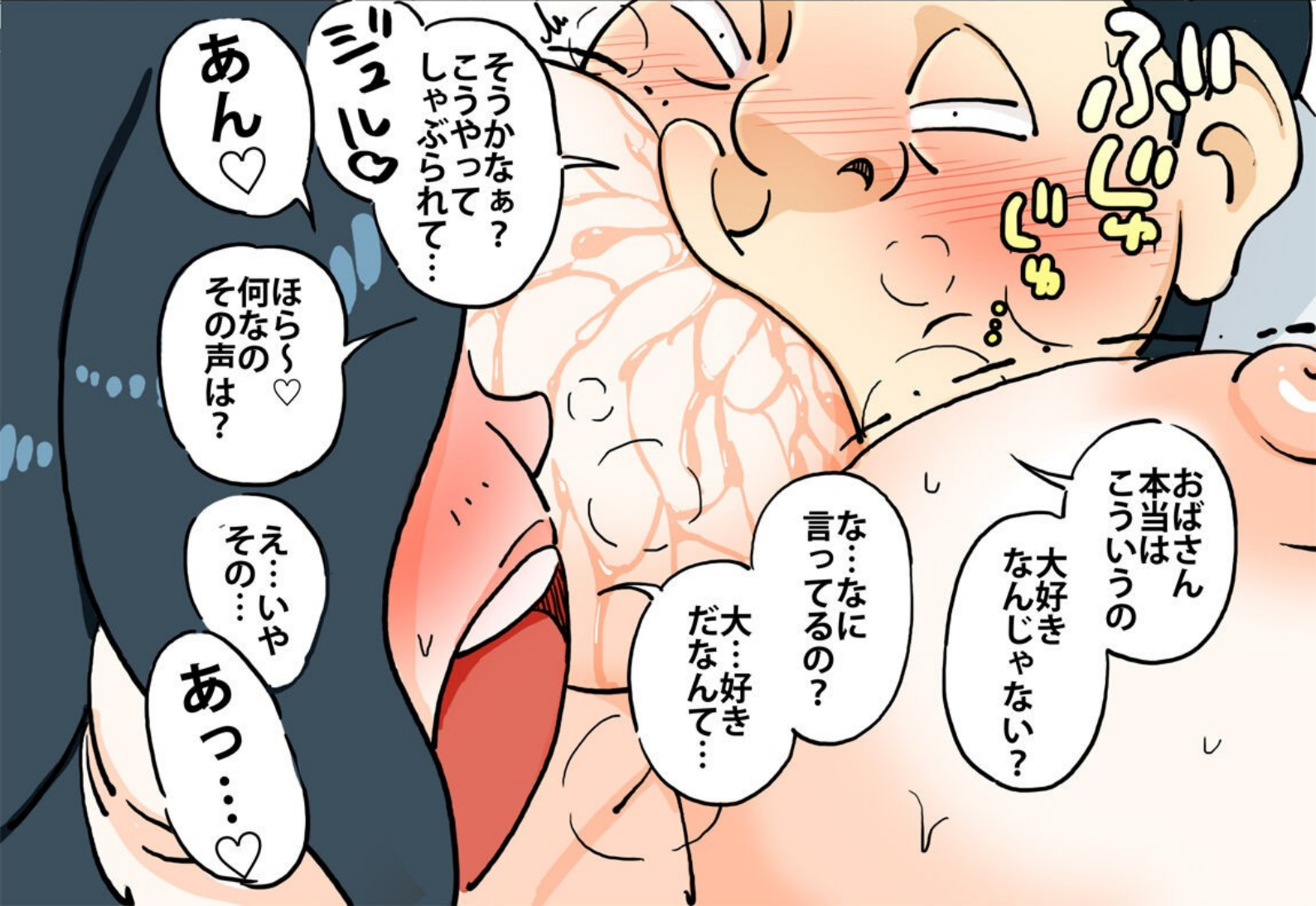
彼が二体何を
言っているのか
すぐには
理解できませんでした

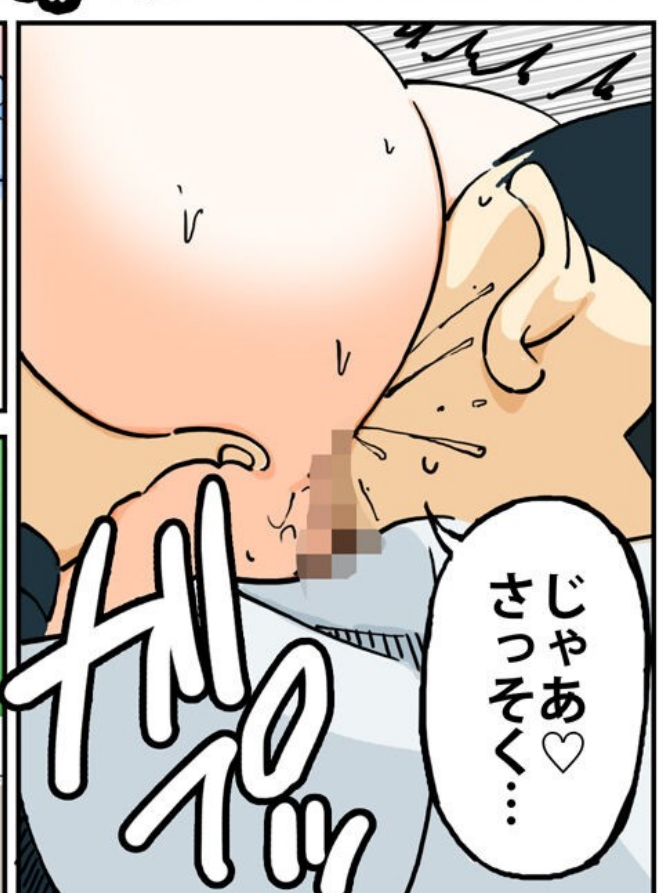
うっひょー！
すっげえええ！
おっさんの
おっぱい

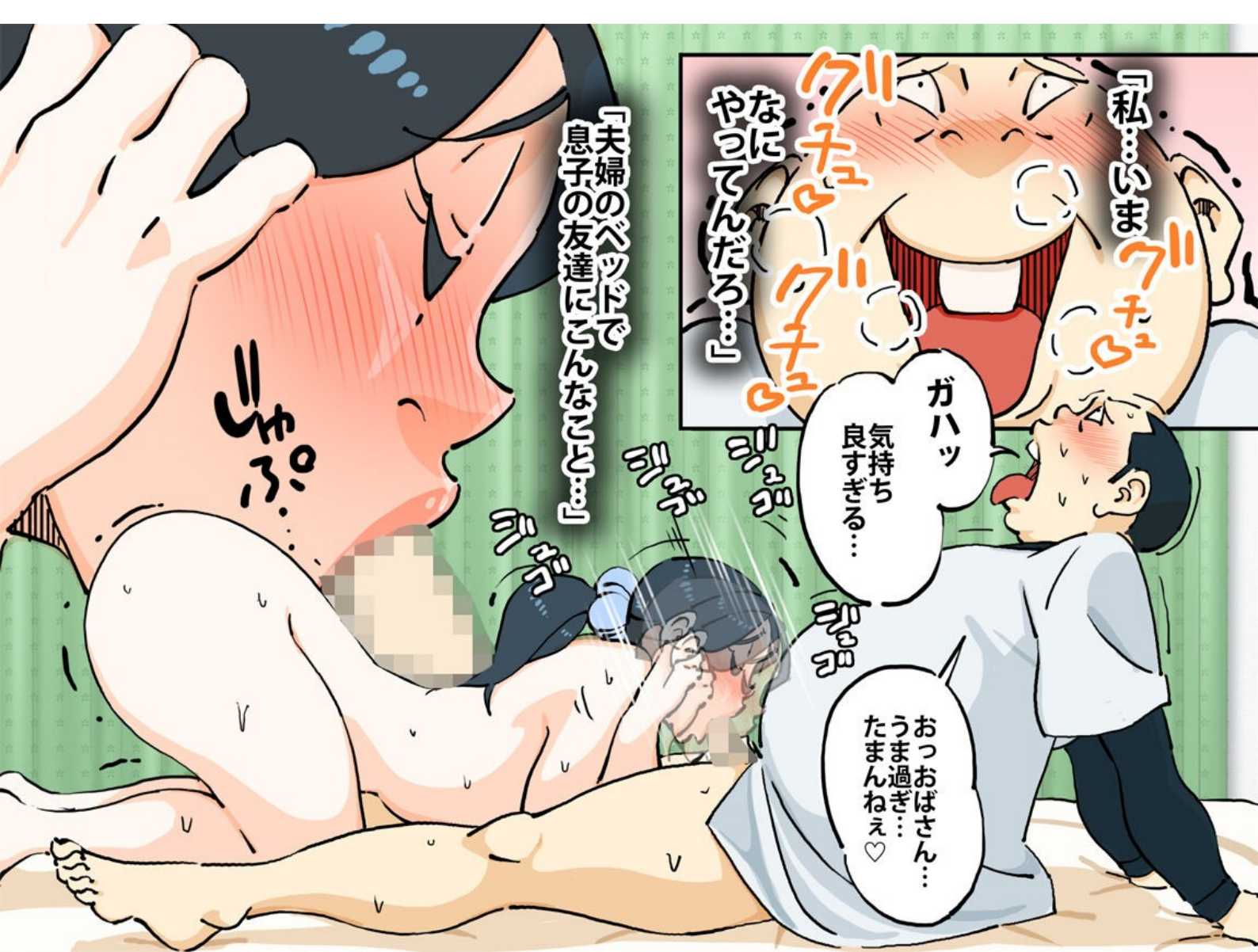
「言いなり」
なっていました…

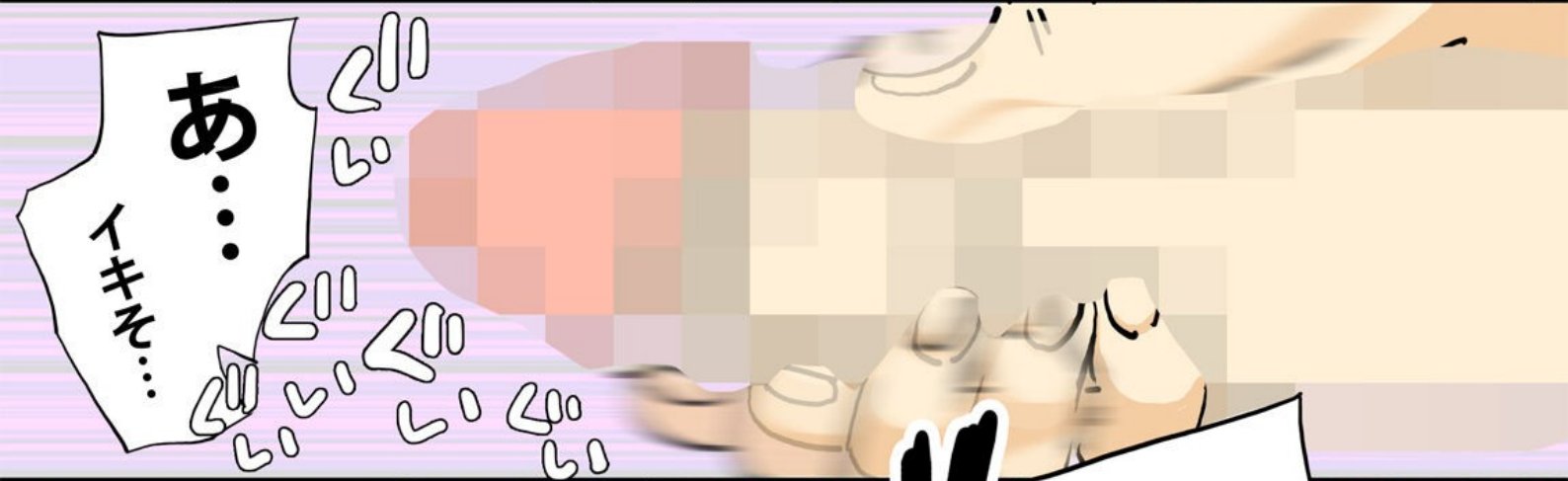
彼は
私が一方的に
カラダを触らせた
とれる音声を
ボイスレコーダーに
録音していたのです…

音声をばらまくと
私は彼に
脅されてしまいました…











彼が部屋を
去ってからも
しばらく

呆然と
へたり込んでいました
今のは一体
何だったのか…

ドク…
ドク…



妙な興奮…

私が一階に降りると
球二郎くんは
もういませんでした…



突然彼に
辱められたことも
そうですが





これは親として
責任を取ろうとした結果…

ぶちゅ

ボクと
このまま
結婚しようよ♡

え？
そ…そうかな

おばさん
積極的に
なってきたない？

ふふ♡
おばさんって
ホント
可愛いよね♡



ど…どう？
球二郎くん…

いっぱい
気持ち良
くなってね♡

おばさん…
いっぱい
動くからね

んっ…ん♡

ああ♡
すっごい良いよ
おばさん♡

そ…そう？
よかった…♡

あっ♡
あん♡
あん♡

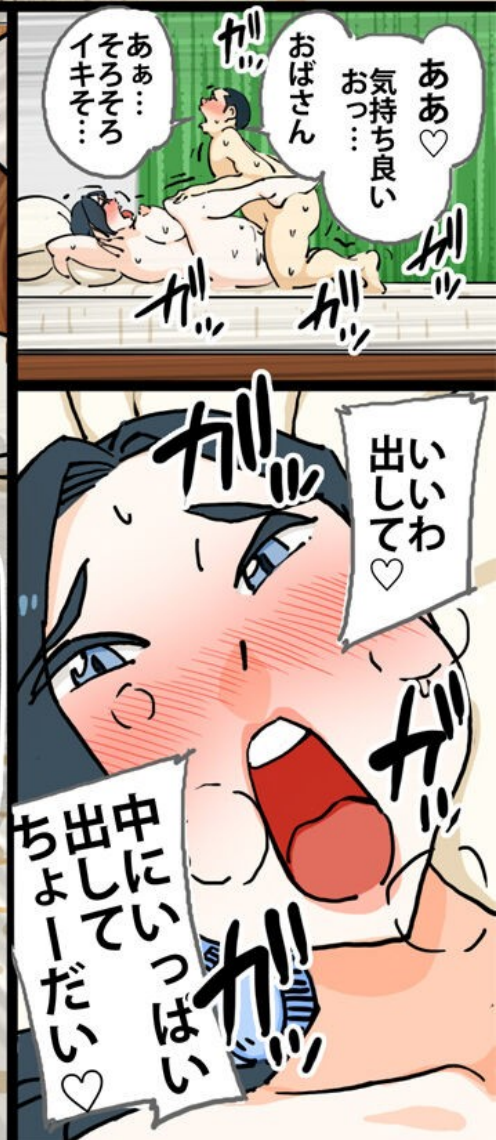
くちゅ♡
くちゅ♡
くちゅ♡

どっしり
なってるの…

おばさんが…
気持ち良
なっちゃって…

あ…ごめんなさい
球二郎くん

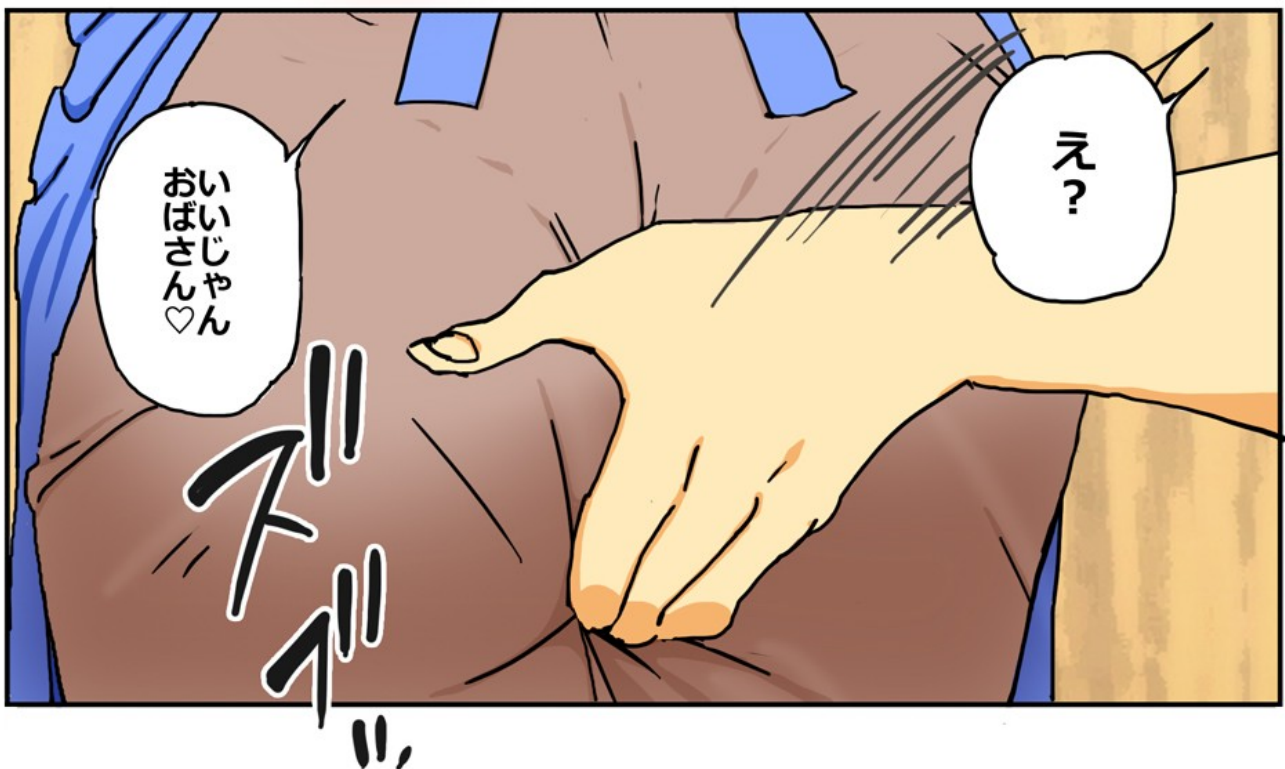
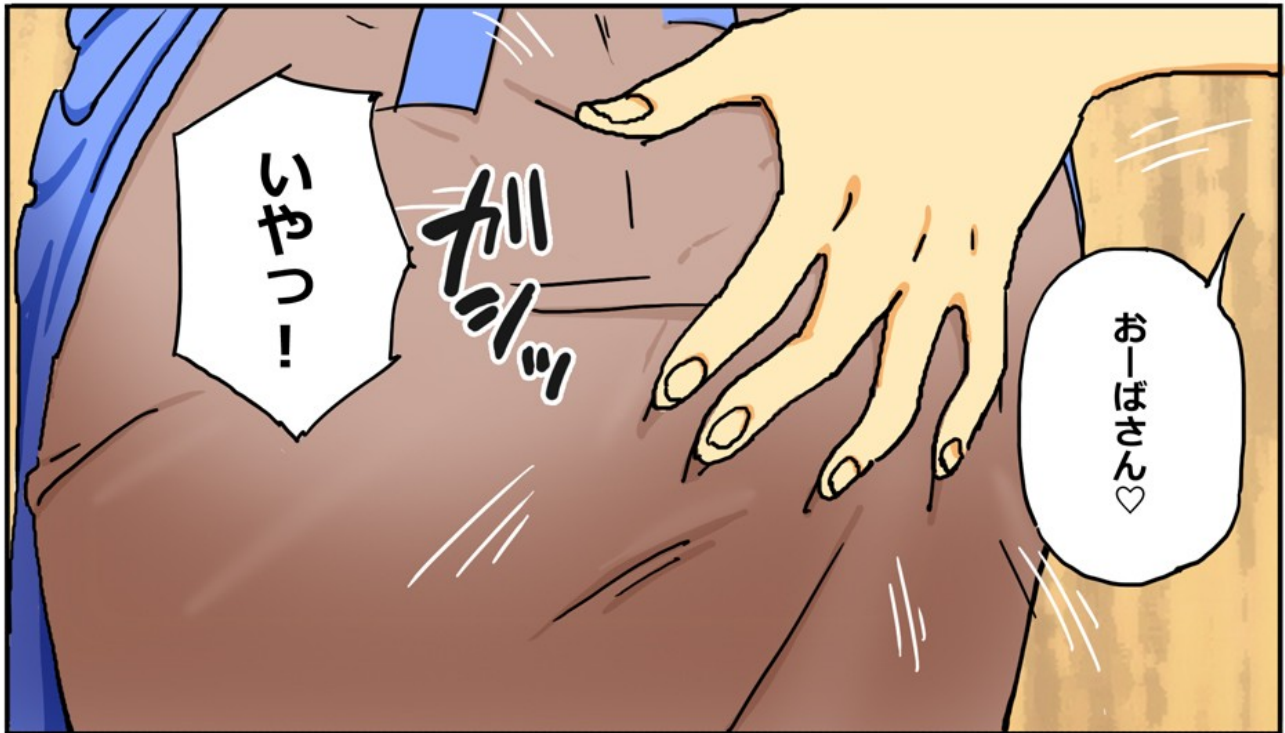
どっしり
なってるの…

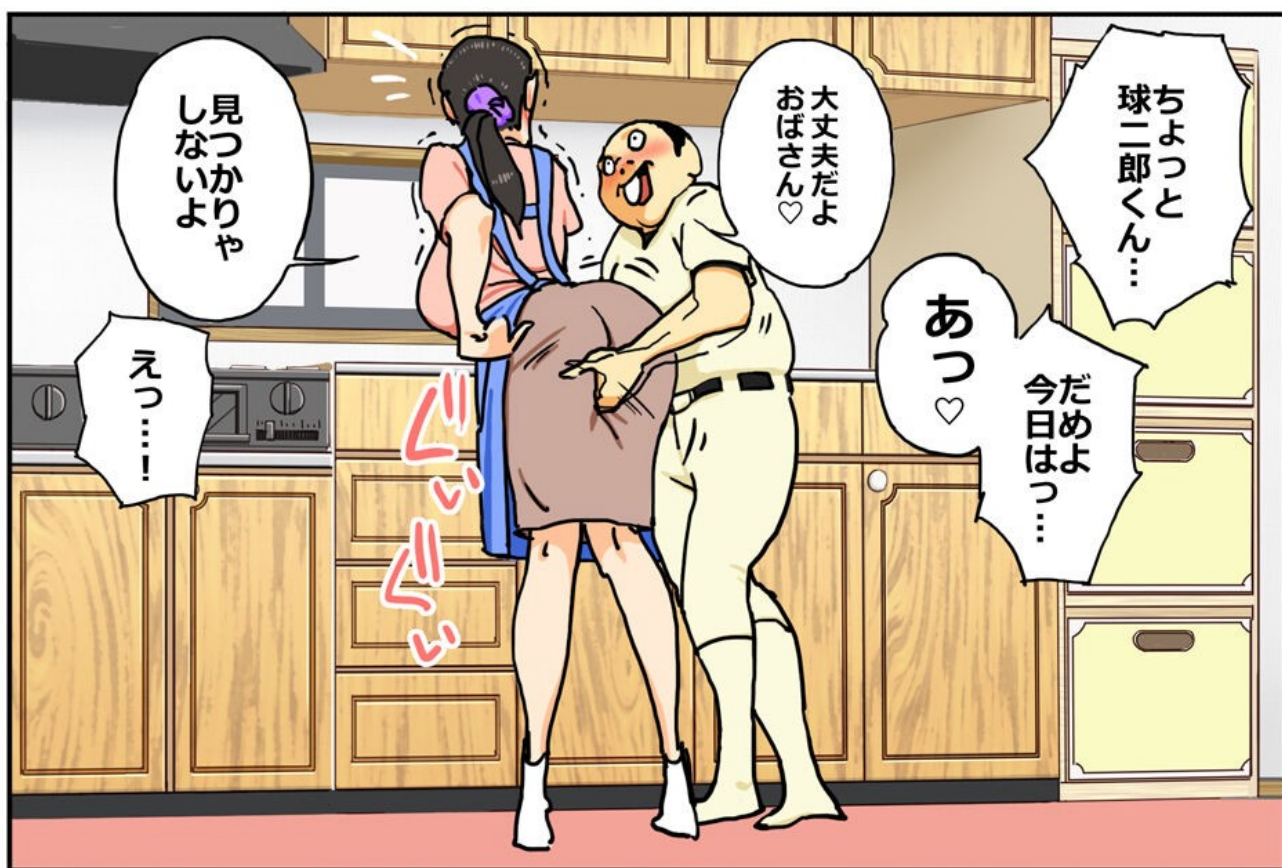


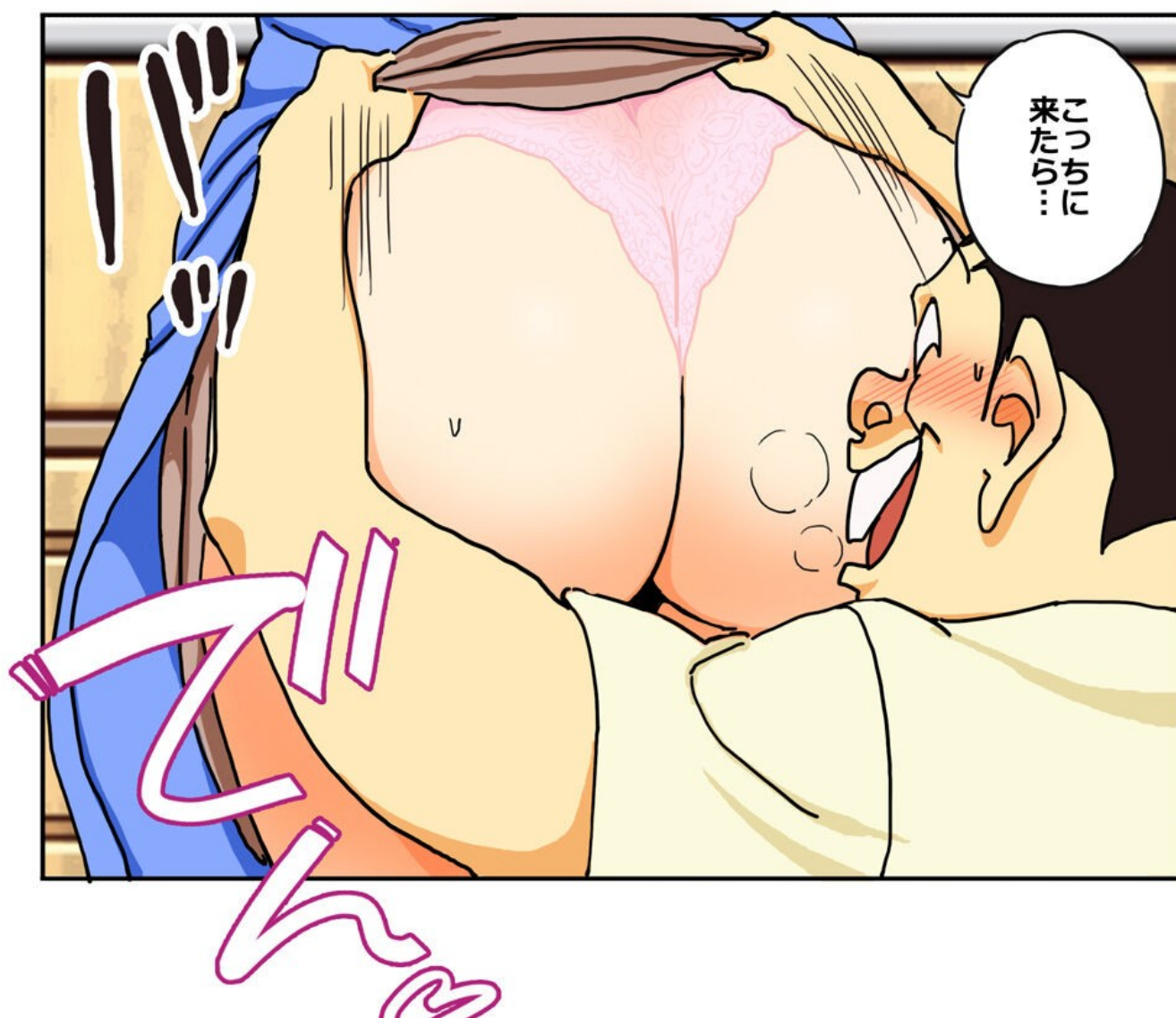


END

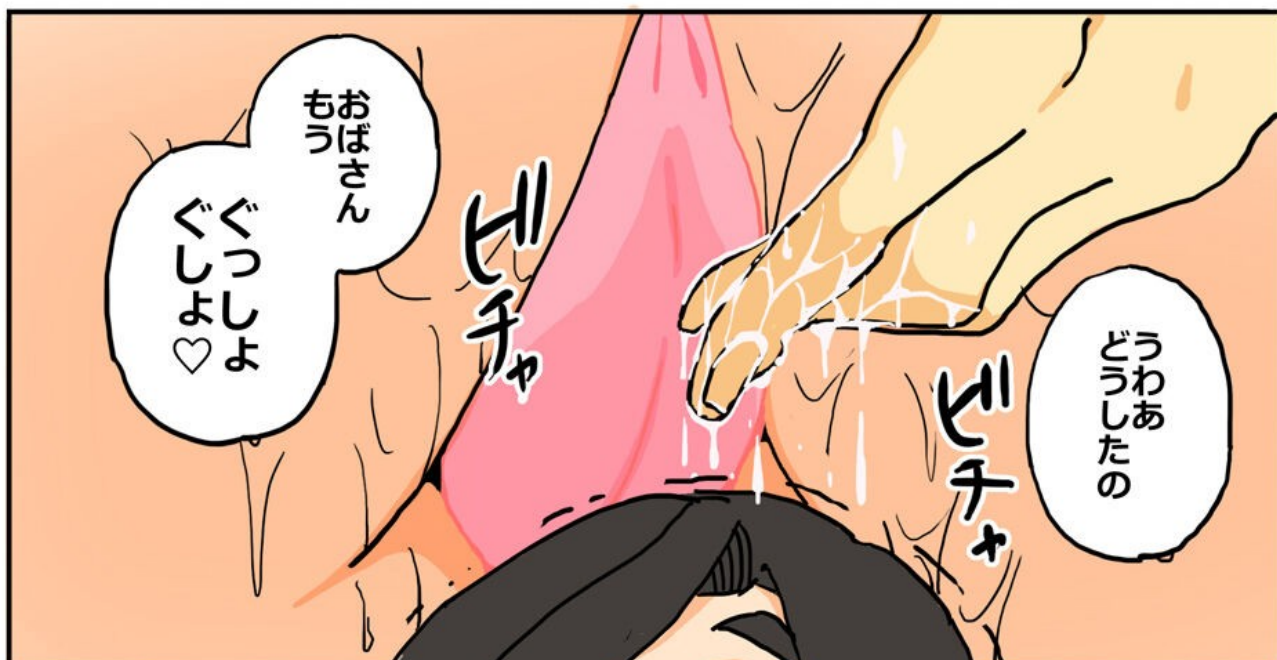
おまけページ

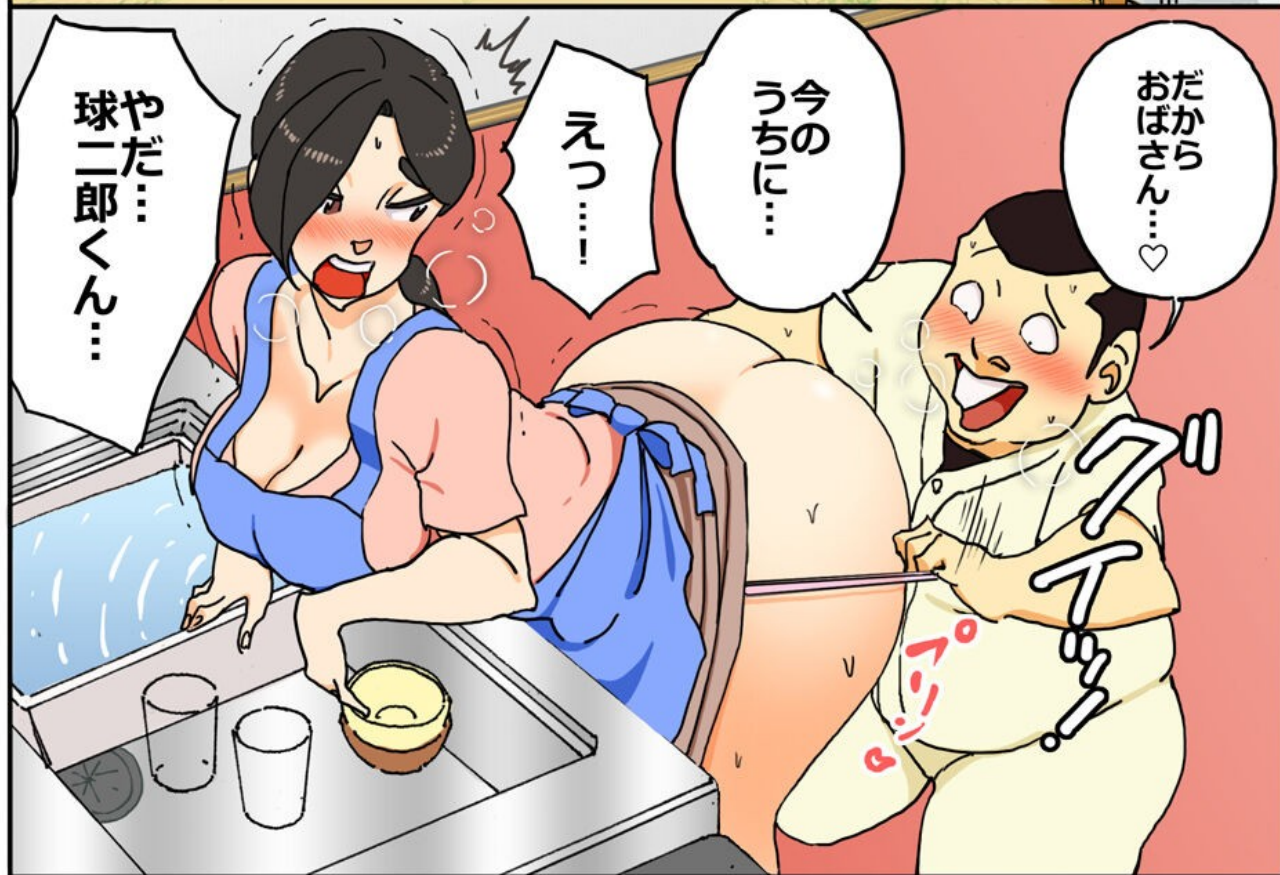
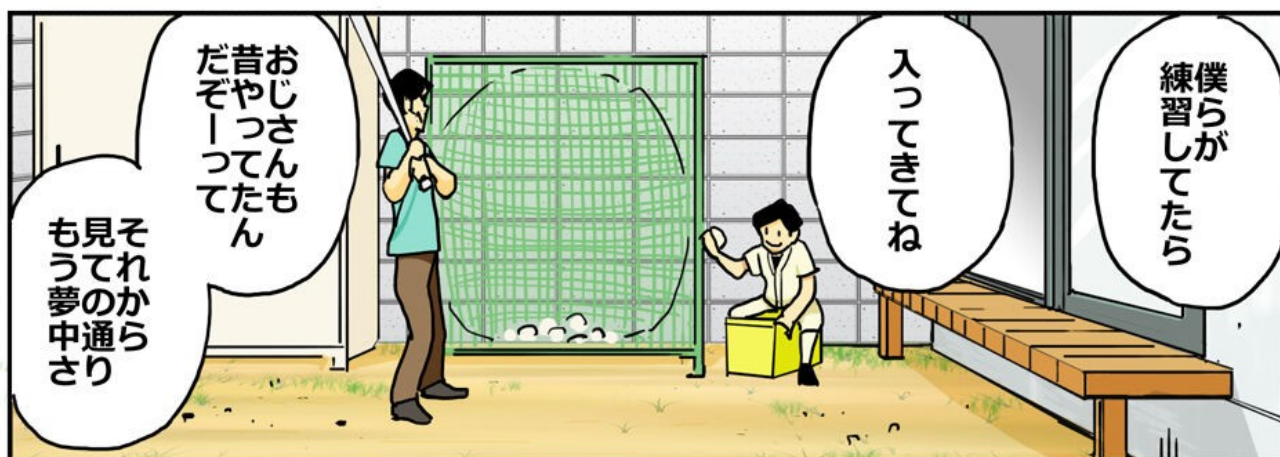


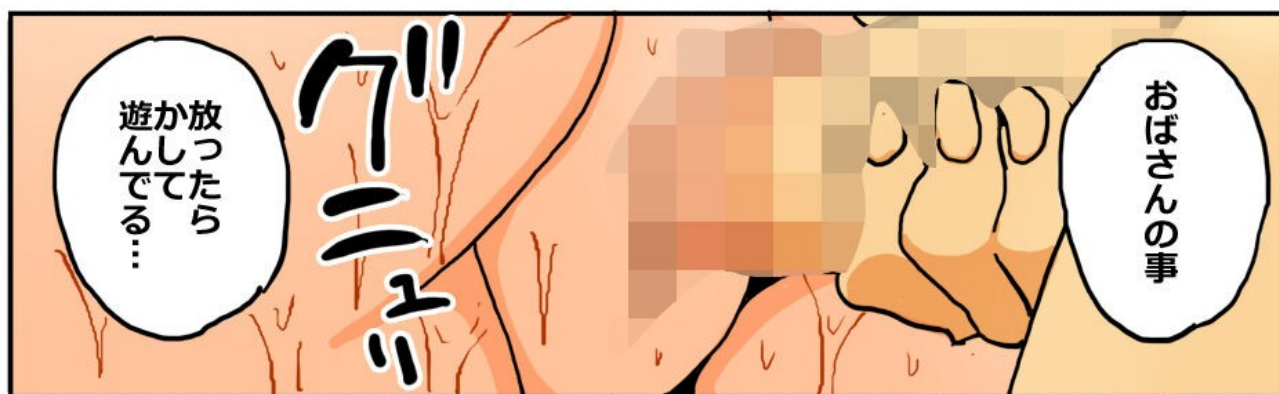
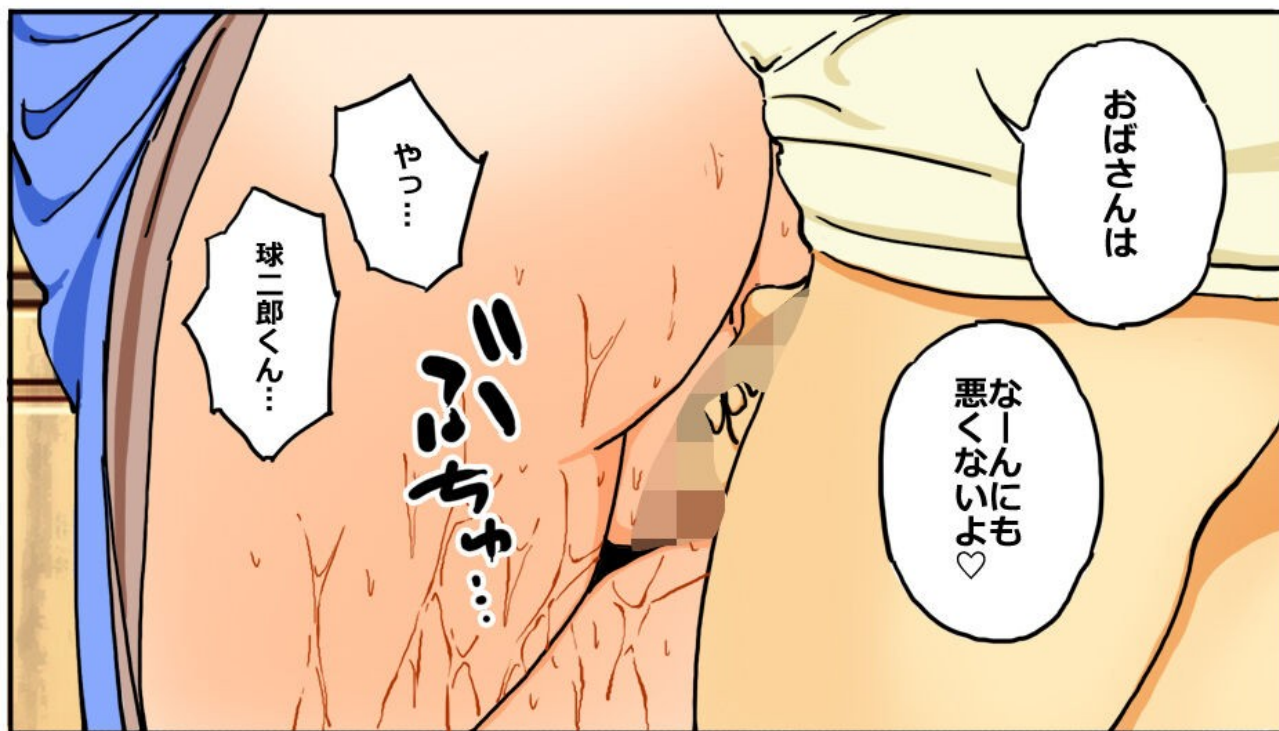


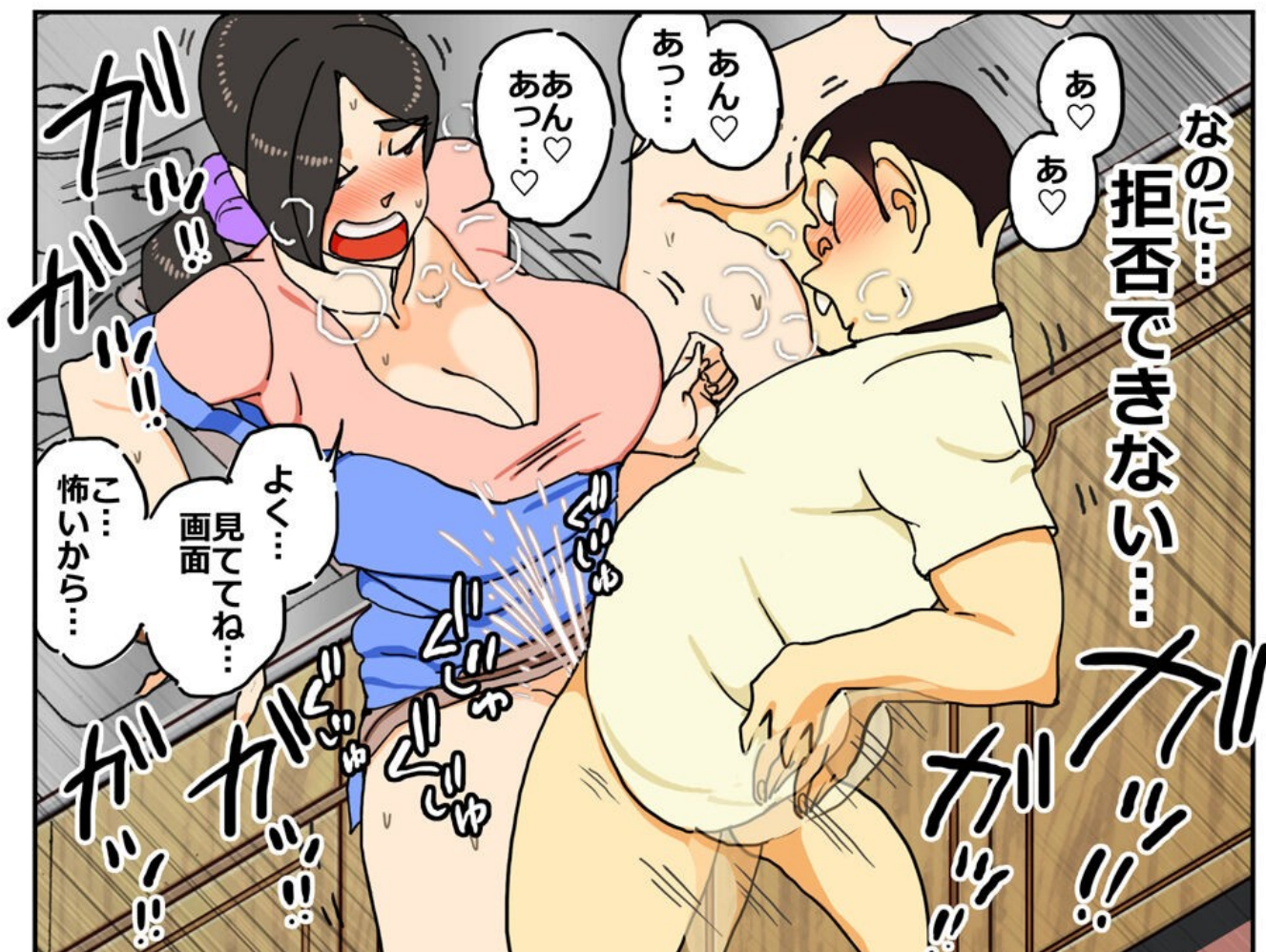














ふたりとも…



ホントに…



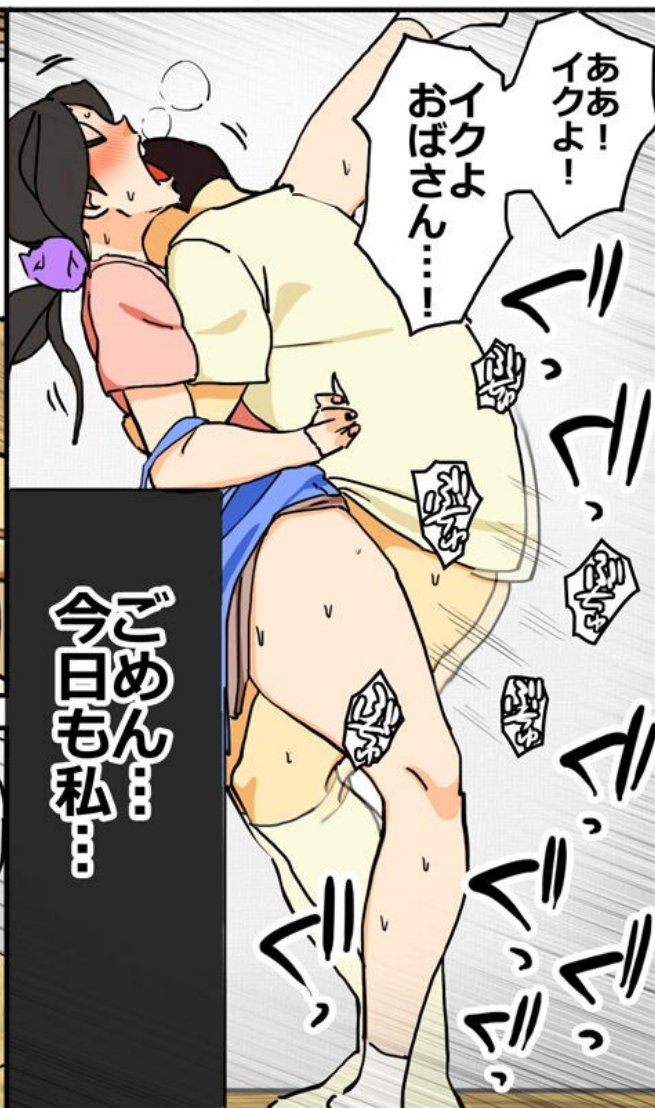
あがつ…♡

ふふ♡
おばさん
わかって
るよ♡



う!
おばさ…

あつ♡
あつ♡
あつ♡



イクよ!
おばさん…!

ごめん!!
今日も私!!



あー早く
球二くん
に見せて
あげたい
なー

そん?
あいつ
や

だよーっし!
温だ
来ま
そー!

いつ
まで
して
んだ?

おわり

2020「カラー版 球二郎くん 人妻のおっぱいが揉みたい年頃」